

— 上智大学 —

2月6日 文・総合グローバル学部 英語

解答

1

1. b 2. d 3. c 4. c 5. c
6. b 7. c 8. c 9. b 10. b
11. a 12. a 13. a 14. d 15. b

2

16. a 17. c 18. d 19. c 20. b
21. c 22. a 23. c 24. d 25. b
26. c 27. c 28. b 29. b 30. a

3

31. b 32. d 33. c 34. a 35. a
36. b 37. b 38. b 39. d 40. c

4

41. a 42. d 43. d 44. d 45. a
46. c 47. b 48. b 49. d 50. d

5

51. b 52. b 53. f 54. a 55. c
56. e 57. b 58. c 59. b 60. f

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

[増田塾 2019 解答速報ホームページ](#)



早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！

解説

1

英文、設問ともに標準レベルといったところで、本学の受験生であれば大意をつかむのは困難ではないだろう。もう一つの長文がやや取り組みやすかったことを考えると、本問が勝負所といったところ。

(1)

第2文の「Utopia という言葉を発したら、ソポクレスもホメロスも奇妙な視線を投げかける」という部分に注目する。その理由は直後、「Utopia という言葉がトマス=モアによって作られたものだ」という文に書いてある。以上の点から判断すれば(b)が正解。

(2)

ヘンリー8世が出てくる最終文の **suggests** の目的語が該当する。当時のイングランドを **less than perfect** と言っているので(d)が正解。

(3)

to create whole worlds という不定詞が **the godlike ability** にかかることに注目すればよい。要するに「神のように世界を作り出す能力」のことなので(c)が正解。

(4)

「文学の世界が筆者の世界に近ければ近いほど、文学作品はますます **realistic** になる」というのが、下線部の内容。**realism** と **fantasy** の対比関係に言及した後であることと、直後の文のオースティンが **realism** の側の例であることを利用する。オースティンの描く世界は「オースティンが執筆して生活している世界にとっても似ている」とあるので、(c)が正解となる。

(5)

設問になっている人物は、リアリズム作家であるオースティンとの対比になっていることに注目すれば(c)だと判断できる。

(6)

ファンタジー作品を答えればいいので(b)になる。

(7)

A good example is H.G. Wells's という部分に注目すること。ウェルズが何の具体例かを考えれば直前の **Some writers** の具体例であることが分かる。彼らが考えていることは、「自分たちは徐々に完璧(な社会)へと向かって進んでいる」ということなので(c)が正解。

(8)

「私たちが現在生活している世界よりもより良い世界を実現するということから離れている」というのが下線部の意味なので、読み誤らなければ(c)だとわかる。

(9)

該当段落の第2文から、(b)の内容を読み取ることが可能だが、消去法で選ぶしかないだろう。(c)と(d)はいいとして、(a)の選択肢を落とせるかどうかにかかっている。該当段落の第3文目に **These back-to simplicity utopias** とあるが、その数が選択肢のように **most** かどうかは不明である。**These** の指示対象を確認しても **most** という記述はない。よって、選択肢(a)を誤りとして(b)を選べば良い。

(10)

段落冒頭の「あらゆる社会が、自分たちの **good place** とはどんなものかという大まかな考えを持っていた」という主張の後に、設問のような具体例が並んでいる点に注目する。(a)の **religious coherence** は無関係の記述、(c)の **a moral dimension**、(d)の **theological discussion** も本文の話題ではない。よって(b)が妥当だといえる。**utilise** がやや引っかかるかもしれないが、次の段落の冒頭で、**These belief systems have ~ inspired authors** とあるので、その部分と対応していると考えれば良い。

(11)

wither 「しぼむ」が自動詞なので、名詞構文を噛み砕いて「国家がしぼむこと」という趣旨であることをつかめれば、(a)だとわかる。なお、**wither away** は「徐々になくなる」という意味。

(12)

「トマス=モアの作品も例外ではない」とすれば意味が通る。

(13)

下線部を含む文の構造を誤らないこと。ここでの **make** は自動詞で、**make for A** 「Aを生み出す」という意味であり、その目的語が **and** によって並列されている。よって、文全体は「状況をディストピア的に捉えることは、活発に本を読み、過去・現在・未来の社会について、より挑発的に考えることにつながる」という意味になる。よって答えは(a)になる。

(14)

utopia よりも **dystopia** を扱う作品を重視している点は比較的容易に読み取れるはずなので(b)と(d)に絞る。あとは最終文から自分の好みを表明するのではなく、探し出す価値があると読者に述べている点から(d)を選べば良い。

(15)

大意把握できていれば(b)が正解だと積極的に選ぶことも十分可能。(a)は utopia と dystopia のどちらが現実世界に近いのかという比較はしていないので不可。(c)も utopia と dystopia の比較の基準がずれている。(d)は a realistic image を与えるが不可。

2

講演の文章なので内容は平易。注は多いが問題ないだろう。設問自体も比較的平易なので高得点勝負になる。

(16)

trophic cascades(栄養カスケード)は馴染みのない表現だが、直後に 2 文型で定義が書いてあるのでそこを利用する。おそらく受験生的には食物連鎖のイメージが浮かぶのではないかと思われる。よって正解は(a)になる。

(17)

「意外に思うかも知れませんが、しばらく話を聞いてみてください」というのが下線部の意味。要するに、「ちょっと我慢して話に付き合ってください」という内容であることはつかめるはず。ただ、そう考えて選択肢をみても、やや判断が難しい。このような場合はポイントを切り替えること。下線部の It の内容は直前の部分、つまり「オオカミを移入することで、多くの動物の命が生み出されたこと」である。その内容に触れている選択肢は(c)しかないなので、これを正解にする。設問部分に代名詞があれば、必ず何を指しているのかチェックするという基本通りに動けた人は、遠回りせずに正解できただろう。

(18)

「シカが草木を食べた」という内容だとすぐ分かるはずなので(d)が正解。ポイントとしては代名詞のチェックということになるが、上智大学の受験生には問題ないレベルのはず。

(19)

「シカが園内のある場所には立ち入らなくなる。その後すぐに、それらの場所は蘇り始めた」とすれば意味が通るので(c)が正解。「それと同時に」と考えれば(b)も入りそうな気がするのでやや紛らわしい。

(20)

リード部の NOT を見落とさなければ(b)が正解になる。上智大学の割にはパラフレーズもほとんどしていないため平易。

(21)

オオカミがシカを殺害するという内容が段落の中段に書いてあるが、直後にそれが重要なことではないと続く部分に注目する。重要なことは、オオカミが存在することによって、シカの行動パターンが変化し、それによって、植生が再生されたということである。この点を考慮すれば正解は(c)だとわかる。

(22)

該当段落の後半で bears が出てくるので、その部分が根拠になる。(b)は Bears fed on it too の it が前文の the carrion that the wolves had left だと確認すれば問題はない。(c)は shrub 「低木」だと知っていれば trees or bushes の言い換えは妥当だと判断できる。(d)は段落最終文より読み取ることが可能。一方で(a)の選択肢は「低木」をクマが食べるわけではないので不可。クマが食べるのは(a)そのものではなく(c)である。

(23)

「蘇った森が土手を安定させた」という内容に続く結果の部分なので、「崩壊しなくなる」という趣旨になることは明らか。よって(c)が正解。

(24)

(23)と因果関係が逆になっているだけの設問。正解は(d)になる。

(25)

該当段落の大意が把握できれば解答できる。日本政府のように、クジラの数減らせばオキアミの数が増えるというのが事実であると思われるが、実際はそうではなく、クジラの数減るとオキアミも減少したのである。よって(b)が正解。他の選択肢は特に紛らわしくないはず。

(26)

第5段落の意外な事実の原因を説明した段落であることを意識しつつ読解すること。クジラがオオカミとシカの例のように、生態系に影響を及ぼしたことが段落の書き出しの部分からわかる。and 以下が詳細な理由になっているが、(注)に載っている語に慌てることなく丁寧に読み進めていけば、(c)だとわかる。クジラがオキアミという他の生物の数を支えるのに役立っているはずだと、第5段落の内容から推測して読み進めれば、内容はつかめるはず。

(27)

第6段落の後半部分が該当箇所。(植物)プランクトンが光合成によって大気中の(二酸化)炭素を吸収してくれるという趣旨をつかむこと。そして、そのシステムにクジラが寄与しているので、正解は(c)になる。注が多く、読みづらいことを予想してなのか、設問は比較的平易なものが続く。

(28)

オオカミやクジラという一つの種の有無で生態系が大きく変化するという流れがわかっているならば、(b)だと即断できる。

(29)

本文最終文が根拠、「栄養カスケードは失われつつある種を再移入させることを支持している」とあるので、(b)が正解。

(30)

本文の趣旨と一致するもので(a)が正解。積極的に選ぶことも可能だろう。(b)は内容もずれるし、具体的な内容を含みすぎなので main points でもない。(c)は fully understand the ecosystems が最終段落の冒頭に矛盾、(d)は本文の書き出しの語句を用いただけの関係のない内容。

3

語彙の問題。決して易しいレベルではないのだが、本学では高得点が期待される。(33)、(39)、(40)あたりがやや難といったところ。他の問題はしっかりと得点したい。

(31)

decline 「～を断る」

(32)

concern 「懸念」

(33)

undue publicity 「過度の宣伝」なので(c)の too much が正解。

(34)

successive 「連続的な」、(a)の consecutive も同じ意味を持つ。

(35)

withhold 「～を差し控える」、この文脈では(a)の「～を隠す」と同じ意味になる。

(36)

dispose は pose 「～を置く」のイメージのものが狙われやすい。ここでは「人を～する方向に置く → ～する気にさせる」という意味で、(b)が最も近い。

(37)

affiliated 「提携している」

(38)

adversely 「逆に、不利に」がわかれば問題ない。

(39)

patronizing 「人を見下したような」というネガティブな意味にも関わらず、not unkind だという流れを掴めば though が適切なので(d)が正解。

(40)

no small 「かなり大きな」

4

問題ごとの難易度の差が大きい。仮定法などの基本問題での失点は絶対に許されない。(41)、(43)あたりが少しレベルが高い。他の問題で可能な限り得点を稼いでおきたいところ。

(41)

come close to 「もう少しで～するところだ」、match が「～に匹敵する」という意味なので文脈を利用して解けばいい。

(42)

仮定法の倒置の基本パターン

(43)

譲歩の as だが、動詞が前に出てくるパターンは見慣れなかったかもしれない。本問のように助動詞とセットで使用するのが基本。

(44)

put up with の後ろに目的語がないので(d)を選べば良い。

(45)

仮定法の基本

(46)

「一連の考えが邪魔された」、使役動詞の have に気づけば良い。

(47)

let alone 「～はいうまでもなく」

(48)

理由を示す for

(49)

work up an appetite 「食欲を刺激する」

(50)

work with figures 「数字を扱う仕事をする」、冒頭の「数学がダメだ」という部分から考えれば良い。

5

10問と数が多いが、大学のレベルを考えれば平易な問題が多い。語順がすべて決まらなくても正解が出せるものが含まれている。英文自体は長いので、日本語と見比べつつ、どの部分を並べるのか意識しながら解いた方がやりやすいだろう。

(51)

scientific and political book written by

(52)

except his letters the flexibility (of his) mind

more clearly ～ writings までが挿入で、reveals の目的語を書く意識を持つこと。except his letters は直前の writings にかかることを見抜ければ問題はない。

(53)

Anyone interested in Jefferson (and his) times will

(54)

which are of little interest to

of +抽象名詞=形容詞は、このように補語の位置で使用されることが多い

(55)

a commentary on problems as relevant (to our own generation)

後半並べるのは難しいが、as a commentary on ～さえ分かれば得点できるのでなんとか頑張りたい。

(56)

to some extent the sounds of (the past)

(52)と同様で動詞と目的語の間に挿入を置くこと。

(57)

Allied with memory (, it) can evoke an (individual's past)

(58)

(In) previous centuries the Thames (really) did run (sweetly)

(59)

that things are (always) as they appear

are と appear が逆になったとしても、とりあえず正解は出る。

(60)

in that (it) is not exhausted by

これは並べる必要もなく in that SV だけで解答が出てしまう。

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ 

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！